

県民意見提出制度による提出意見とそれに対する県の考え方

「リニアやまなしビジョン」(素案)

No.	箇所	意見内容	意見数	意見に対する県の考え方
1	4. 本県の強みと弱み 【強み】 ○本県が誇る地域資源 ・全国1位のぶどう、もも、すももの生産量	素案では「バックキャスト型思考」が随所にあります。果物と野菜について同様なアプローチの可能性が有ると思います。 例えば、1年間を通して山梨の旬の果物と野菜を堪能してもらう「フルーツカレンダー」の企画・策定や、キウイの生産を積極的に進めることなどで、四季折々を楽しむお客様(リピーター)を増やし、観光需要の季節変動平準化とともに、観光に来た交流人口を、関係人口(観光と移住の中間)、更には定住人口へと発展させたいと考えます。	1	【その他】 御意見については、農業・観光関連施策の参考とさせていただきます。
2	5. 目指す姿と実現に向けた取り組み (3) 相乗効果を期待して取り組む施策 施策1: 関連産業の集積と研究開発機能の拠点形成	研究開発機能の拠点形成には、テストベッドという先端技術の実証実験の“場”という「ハードウェア」とともに、優秀な研究者や技術者を山梨県に集結させるための「ソフトウェア」が必須です。それは、地域に根付いた地道な努力の結晶である人材育成であり、地方の大学等の人材養成講座をより一層積極的に活用願います。 (例えば、山梨大学「燃料電池関連製品開発人材養成講座」の受講者(78名・30団体)は、研究開発機能の拠点形成に貢献し、関連産業創出へと発展できる可能性を持つ1つのアプローチと考えています。)	1	【記述済み】 県としても、研究開発機能の拠点形成には、地元大学等における人材育成が不可欠と考えており、p32のビジョンの推進体制にあるとおり、様々な主体とのパートナーシップにより取り組みを進めていきます。 (記述内容) 県民をはじめとして、市町村、関係団体、民間企業、NPO、教育・研究機関などの多様な主体とのパートナーシップにより、それぞれの役割を果たしながら、情報共有や事業調整など連携を深め、オール山梨で取り組みを進めていきます。
3	5. 目指す姿と実現に向けた取り組み (3) 相乗効果を期待して取り組む施策 施策3: 次世代を担う人材の育成	人材育成について、今の課題は高校卒業後に県外の大学へ進学し、そのまま県外に就職してしまうことが挙げられると思います。そのため、大学等の誘致、新設が必要ではないかと思えます。	1	【その他】 ビジョンでは、テストベッドを突破口に国内外の優秀な研究者等が結集し、新たな産業の創出、関連産業の集積や研究開発機能の拠点の形成による好循環サイクルを構築させる取り組みを通じて、若者の県外流出の抑制にも繋げていきます。
4	6. 災害に強いリニアを活かした防災力の強化 (3) 国の防災バックアップ機能の本県への誘致	政治・経済等の東京一極集中によるリスクを分散させるためにも、全国レベルで地方分権を進めるべきであり、リニアを分権の手段として捉え直す必要がある。 まず、「テストベッドの聖地」としての地位を確立するためにも、民間とともに国の関連諸機関も進んで誘致し、より多くの重層的な人々の交流を生み出す必要があると考えます。防災バックアップ機能の誘致もそのリスク分散の一環として捉え直すことができます。 国の諸機関も誘致してリスク分散を図り、国の政治・経済・防災等のバックアップ機能を一定程度持たせ、山梨の存在意義を高めてもらいたい。	1	【その他】 ビジョンでは、テストベッドを突破口に国内外の優秀な研究者等が結集し、新たな産業の創出、関連産業の集積や研究開発機能の拠点の形成による好循環サイクルの構築によって、県内の良質な雇用の拡大、県民所得の向上を図ることとしています。 また、国の防災バックアップ機能の誘致については、県民の安全・安心の確保、更には企業立地の促進に繋げていくこととしています。

No.	箇所	意見内容	意見数	意見に対する県の考え方
5	7. 開業に向けて特に必要となる社会基盤の整備 (2) 県内交通ネットワークの充実	宮崎空港線のように身延線とリニア山梨県駅とを線路で結んで、長野県まで特急や快速を走らせてほしい。 そうすれば、リニア山梨県駅で直接在来線に乗り換えて甲府・諏訪・松本に行くことが出来、大変便利になると思う。	1	【その他】 県では、リニア駅と身延線小井川駅との間に定時性の確保されたシャトルバスの導入を検討することとしており、また、リニア駅では、シームレスな乗り継ぎができるよう、交通結節機能を整備します。
6	7. 開業に向けて特に必要となる社会基盤の整備 (2) 県内交通ネットワークの充実	交通政策について、リニア開通を機に車社会を一変させるような思い切った改革が必要だと思えます。 リニア駅と甲府駅とのアクセスでは、交差点改良を行うとありますが、朝夕の状況を見ると、それだけで速達性・定時制が確保できるのかとも疑問です。そこで、新山梨環状道路(東部区間)から分岐し、小瀬スポーツ公園付近から地下トンネルにより甲府駅を結ぶトンネルバスはどうかと思えます。数力所の停留所を設け日常的な通勤通学に利用するほか、サッカー開催時などの混雑緩和、中心街への呼び込みを期待できるのではないかと思います。また、バス専用路とすることで速達性・定時制を確保できると考えます。 また、富士五湖方面への新しいアクセスとして、富士急行線河口湖駅までを鉄道で接続することで、リニア駅から富士五湖、富士山方面への便利な移動ルートを確保する必要があると思えます。 身延線の利用促進については、アクセスの向上に加えてICカードが利用可能になるよう要請していくことが必要と考えます。	1	【その他】 ビジョンでは、県内全域にリニアの開業効果を波及させるため、道路整備によりリニア駅と県内各地との移動時間を短縮するほか、リニア駅と県内の主要拠点を結ぶバス交通の整備を目指すことにより、アクセスの向上を図ることとしています。 また、身延線における交通系ICカード利用エリアの拡大については、これまでも鉄道事業者等へ要望活動を行っておりますが、引き続き、要請していきます。